

「レジリエンス」

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震では、一時北海道全域が停電し、住民の生活に多大な影響を与えることとなりました(例:空調や冷蔵庫が使えない、情報通信機器が使用できない等)。

現在この経験を踏まえて、災害が発生した時のエネルギーの安定供給の重要性が再認識され、「レジリエンス」強化に向けた取り組みが進められています。レジリエンスとは「強じん性」、あるいは「回復力」や「弾力性」を示す言葉で、具体的には、災害に強いインフラの整備、早期復旧のための事業者との連携の強化、情報発信の強化などの取り組みが進められています。

例えば、停電が長期化した場合でも、分散型エネルギーである太陽光発電と家庭用蓄電システムが設置されていれば、双方を組み合わせ、昼間や晴天時は太陽光の電力を用い、太陽光の出力が低下する夕方以降や曇天時は家庭用蓄電システムに充電した電力を用いて自家消費することが可能となり、需要家の電力レジリエンスの向上が期待できます。

